

保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 篠原敬一 編集者 高山英樹



えい! やっとおー!

だ〜れでしょ!?



ミルクおいしい?!



鬼だぞ〜



わたしが主役



vol.117

平成29年度 3号

【写真を提供していただいた保育園】
白百合、しおばる、隅田、しあわせの星

| | |
|--------------------------|-------------|
| 改定保育所保育指針を読み解き自園のものに … 2 | 秋の叙勲受章 …… 7 |
| 「研修問題」に関する一考察 …… 3 | リレー回想 …… 8 |
| グループ研修の見どころ・聞きどころ …… 4~5 | 編集後記 …… 8 |
| 福岡市科学館各フロア紹介 …… 6~7 | |



改定保育所保育指針を読み解き自園のものに

社会福祉法人香蘭育成会 しおばる保育園

園長 長谷川 明美

はじめに 近年の保育をめぐる状況と保育所保育指針改定の背景

ここ数年、保育園を取り巻く制度改革の嵐が次々と吹き荒れてい... 社会福祉法人制度改革により運営組織のガバナンスの強化、評議員の選出と定款変更。子ども・子育て支援新制度による処遇改善I・II、保育所保育指針の改定。改革は法人という外枠から、職員

こうした嵐の背景には、近年、少子化をはじめ、核家族化の進展、地域社会のつながりの希薄化、共働きや単身親世帯の増加等、成長していく子どもを取り巻く環境に大きな変化があり、国や地域を挙げて子育て支援を強化する必要が出てきた。平成27年度から始まった子ども・子育て支援新制度施行のねらいの一つに、幼稚園、保育所、認定こども園等の保育従事者の処遇改善を行い、質の高い人材の確保及び保育者の職場定着が挙げられる。保育の質を高め、子どもが幸せに過ごし、健やかに成長でき、保護者にとっては頼りがいのある保育者集団で、保育者にとってはより働き甲斐が感じられるものになることが望まれているのである。その為にも、園長はリーダーシップを図り、保育者が成長できる研修体制を組み質の高い園内研修を実施することが求められている。実になる園内研修の視点から保育所保育

指針を読み解いていきたい。

保育所保育指針の変遷

昭和40年(1965)に保育所保育のガイドラインとして制定された保育所保育指針は、平成2年(1990)、平成12年(2000)、平成20年(2008)と今回で4度目の改定となる。このたび幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領も同時に改定されたことにより、子どもたちはどの乳幼児施設でも、一定の質とレベルの保育(幼児教育)を受けられることになる。3つの幼児教育施設に共通する保育Ⅱ「養護と教育の在り方」として、「環境を通じた教育」「乳幼児期からの発達と学びの連続性」「小学校との接続の在り方」などが明確化された。そして、子どもたちが未来の作り手として必要な資質能力を育むことが期待されている。

今回の改定のポイント

育みたい資質能力3つの柱



育みたい資質能力とは生きる基礎になる知識、思考力、学びに向かう姿勢の3つの柱からなり、「知識及び技能の基

礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が乳幼児期から高校まで一貫して育まれるものとなる。「社会的情動スキル」や「学びに向かう力」等の生きる基盤作りをすることが、子どもたちの生涯にわたる「学び」を支える力になる。たくましく生き抜く力の源は、自ら学び自らの成長を実感することであり、それは遊びを通して学びの基礎を身に付けることである。今回の改定は、幼児教育の本質や乳幼児期に育むべきものが明確化され、遊びの中で何が育っているのかを自園の保育に照らし合わせ省察する目安となる「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示された。

近年ヘックマンの研究により、乳幼児期に非認知能力(OECDは社会的情動スキルという)である心の育ちの根っこをしつかり築いておくことの大切さや、0・2歳の保育のあり方がその後の育ちに大きく影響することが明らかになってきた。

改定保育所保育指針の総則にも養護と教育は、一体的に展開されることが重要であると強調されている。保育の現場にいる私たち保育者は、養護と教育の意味を正しく理解し、一人ひとりの子どもに対して応答的で受容的な関わりをし、愛着関係や信頼関係を築けるような温かく丁寧な保育をしていかななくてはならない。

また、追加記述されたものの中に、「災害への備え」がある。私たち職員は、子どもの健康と安全を守る使命がある。具体的な内容と手順、緊急場面に遭遇した際にどの様に誘導するかを想定し、日



頃からの「準備」と「心構え」と「訓練」は欠かせない。二次災害を防ぐ手段や、その後の保育をするための配慮、保護者との連絡や引き渡し方法等も全員で共通理解しておく必要がある。

同僚性を育む園内研修

園長をはじめ主任や副主任は、改定された指針を全保育士が理解し、専門性を高め合える職場内環境をどの様に整えていくかを試行錯誤していることであろう。大学の有識者を講師に招いた研修会を実施するのも一つのやり方だと思

うが、やはり同じ園内で同じ子どもを見て、子どもの育ちに寄り添う保育者同士が同僚との対話から、目指す方向を見据え共に保育を生み出していく園内研修が効果をもたらしだそうと考える。保育者集団として、保育経験から得てきたもの、過去に研修で学び得たもの、記録から見えてきたものなど、子どもの最善の利益に向き合い、柔軟に目的を達成するために、保育者が学び合い、協働し合う関係が必須である。まずは、中堅保育士が中心となり、記録から導き出される指導計画↓教材研究↓実践↓評価反省の連鎖を捉え、考え合い学び合う関係づくり、すなわち同僚性が発揮できる園内研修を行うことが重要である。

おわりに

今、園のリーダーである理事長や園長は、難しい舵取りを迫られている。様々な保育課題を効果的に柔軟に達成するためには、保育者が協働しあう職場環境を作っていかなくてはならない。まずは、園長や主任のリーダーシップのもと副主任や中堅保育士が核となり、自園のこれまでの保育課程と改定保育所保育指針を照らし合わせ、全園あげて保育課程を見直し、「全体的な計画」へと作り変えていく必要があるであろう。

運営することは多くのエネルギーが必要であるが、今保育に期待されることは、きわめて大きい。保育者達が自園の保育に愛着を感じ、よりよい保育の専門職集団となり、日々の保育を通して子ども一人ひとりを輝かせ、子どもの人生を充実させる保育園になってくれることを望んでいる。

日本の宝、未来の希望である子どもたちの幸せを願い、保育者同士、保育者と園長、保育者と主任と分け隔て無く語り合えるきっかけにして頂ければ幸である。それが確実にそれぞれの園のものになるであろう。



「研修問題」に関する一考察

福岡市保育協会総務部長(豊庄保育園園長) 西尾 達

はじめに

今、私の整理が行き届いていない机の上には、今年度から支給されることが決まった処遇改善費IIに伴う研修の企画書があります。大分県、兵庫県、福岡県、熊本県が作成した4つです。その他の自治体でも作成したものがあられるかもしれませんが、この原稿を書いている12月下旬段階で、私の手元にあるのはこれだけです。

今年度は処遇改善費IIについて、必須である研修は見送られるという決定がなされ、福岡市では具体的な検討作業をしていなかっただけに、こうした企画書に接し私はいささか焦りました。今後どのような取り組みをしていくべきか大きな課題ですが、そのことを論ずる前に、まずは処遇改善費IIが登場した経緯と問題点、必須とされた研修の内容と課題について述べることにします。

処遇改善費IIの登場

処遇改善費はすでに支給されています。しかしながら、全職種の平均月収に比べ保育士は約4万円低いということが国会でも問題となりました。「待機児童が解決しないのは保育士が不足しているからだ、保育士を確保するために処遇を上げなければならない」という至極当たり前の論理が通り、国会で認められました。しかし、先ほども述べましたように処遇改善費はすでに支給されており、詳しい事情はわかりませんが、さらなる支給にはそれなりの理論づけ(理屈づけ)と言った方がいいかもしれません。)が必要だったのでしょうか。

そこで、中間管理職を作り、その職に応じて処遇改善費を支給するという仕組みが考案されました。そのため以前から支給されたものを処遇

改善費Iとし、今年度からの分は処遇改善費IIと呼ぶことになりました。この中間管理職に関しては問題はありませんが、まず処遇改善費IIのしくみについて述べます。

処遇改善費IIのしくみ

処遇改善費IIのしくみが書かれた内閣府・厚生労働省作成の資料(2017年10月)があります。タイトルは、「保育士等に対するキャリアアップの仕組みと処遇改善がスタート」と書かれています。さらに、「高い使命感と希望をもった保育の道を選んだ方々の努力が評価され、将来に希望が持てるよう新たにキャリアアップの仕組みを創設し、キャリアに応じた処遇改善が始まります」と高らかに謳われています。

柱は2つ。①新たに職務分野に応じた研修体系を整備し、②この研修を受けた人を対象に処遇を改善する(研修による)キャリアアップを結びつけたのが特徴です。

研修には、乳児保育、幼児教育、障害児保育、食育・アレルギー、保健衛生・安全対策、保護者支援・子育て支援、保育実践、マネジメントの8つの分野があります。これが「研修体系の整備」であり、この研修を受けた人に処遇改善をするというのです。処遇改善は月額4万円と月額5千円(当初はこうでしたが、

のちにその間の金額も認めることになりました。しかしその内容についてはここで説明するのは省略します)の2つ。問題は時間です。1分野15時間で、5千円の人は1分野、



4万円の人は4分野を受けなければなりません。そして対象となる職員は、園長・主任保育士を除き、保育園に勤務する全職員ですが、4万円は職員全体のおおむね3分の1、5千円は5分の1と決められています。

いろいろな問題点

この処遇改善IIの仕組みにはいろいろと問題点があります。一つ目は2つだけの数人の職員を研修に出すことができるのかということ。この実施にあたって、職員一人当たりの研修の機会を2日から年3日に増やすというのですが、職員の処遇改善のためとはいえ現場はかなり混乱するでしょう。また、福岡市全体ではない何人がその対象となるのでしょうか。一度の研修で200人を受け入れるとしても、対象者全員の研修を保障するのはかなり困難です。平成29年度については研修要件は課さないということですが、今後どうなるか心配です。

二つ目は、これが私が一番心配している問題点なのですが、4万円という金額の大きさと対象者を経験年数がおおむね7年以上としたことです。新設園においては該当する職員が少ないという問題もありますが、何を基準に対象者を決めていけばいいのかという点です。「それは管理職の仕事でしょ」と言われればそれまでですが、公平・公正な選び方は困難を極めます。職員にはそれぞれ得意・不得意な点があります。また、保育園によって成し遂げられるものな協力によって成し遂げられるものです。中間管理職を作ることがはたして職場の協力体制に寄与するとはとうてい思えません。評価についても、その基準を営業成績のように明らかな数値で判断できないのが保育園の仕事ではないでしょうか。さらに、これは学校においても同様だと思いが、すぐに効果が出ないのがこの世界です。私が中学校に勤めていた時、あれだけやんちゃなことをしていた生徒が、卒業後何年

もたつて立派に仕事をしている姿を見ると、長い目で見ていかなければならないとつくづく感じています。

解決策はありますか？

全国私立保育園連盟の塚本秀一さんが、12月15日に開かれた第33回子ども子育て会議で次のような意見を述べています。「今、保育現場では来年度の職員採用を進めておりませんが、多くの園で募集に見合う応募がないのです。今年度から新たな処遇改善を実施しているにもかかわらず、保育士が集まりません。この処遇改善等加算IIについては、現場ではその公平な運用にかなり困惑しております。当初報道されたように勤続年数7年以上の保育者すべてに月額4万円の給与改善が実施できるようにご配慮をお願い申し上げます(平成29年度8号)」と。

私はこの考えに賛同します。勤続年数7年と定めたのには理由があります。保育士の平均勤続年数がおおよそ7年ということがいうのは念頭にあり、この壁を越えるためには処遇改善が求めらなければならないと思います。待機児童対策が叫ばれています。保育園の新設・既設園の増員等による保育の量の拡大は図られても、それを担う保育士がいらないのではそれも不可能ですし、保育の質の低下を招きかねません。

「研修」って何？

今回の処遇改善問題を考えるにあたり、そもそも研修って何だろうということが頭を何度もよぎりました。今回提案された「研修」は、受講することが処遇改善の必須条件とするというもので、これまでの研修とは異なる発想から実施されようとしています。と、これを受けないければ処遇は上がらないとなれば、やらざるを得ません。塚本さんが主張するように経験年数7年以上全ての人を処遇改善できるシステムは作れないのでしょいか？処遇改善のためとはいえ、1分野が15時間、1日

5時間だと3日間。4分野の受講となると・・・かなりの負担です。また、この研修を重視してきた研修に影響が出ないかという心配もあります。現在の福岡市における研修体制は、他の自治体と比べても遜色がないどころか、トップクラスと言っても過言ではないと思います。福岡市、保育協会、保育士会、民間協同、主催するところは違っていますが、保育の質を守り、その結果子どもへの育ちを保障する内容になっています。参加する人たちは、自らの力量を高めるために研修を重ねています。これまで福岡市が大事にしてきた研修内容が後退するようでは、長い目で見れば保育の質の後退にもなりかねません。

おわりに

様々な問題をかかえながらも、本格実施まで何年の猶予が認められるかわかりませんが、保育園職員の処遇改善のために研修の実施計画作成を早急に取り組んでいかなければならないと思います。初めに紹介した他県の研修企画書を見ると気がききます。公的な機関が行っているところとそうでないところとの差は歴然です。研修を受けたことを証明する認定証の発行には、かなり厳密な手続きが求められ、それに対応するために受講確認を含め研修システムの構築のためにかなりの費用がかかり、そのためにもそのようになっているのかもしれない。高額な受講料であっても、研修の申し込みは多くあるかもしれませんが、受講者への負担はできるだけ軽くしなければなりません。そのためにも福岡市保育協会が中心となった研修体制の構築が求められています。



保育研究大会

研修の
・聞きどころ



ブに分かれ、2年間にわたって研修を深めてきています。究大会で、2年に1度行われていましたが、今年度より発表

す。るように。そして、何より参加している方々にもゆっくりとと思っております。

大会での見どころ聞きどころポイントをご紹介します。

平成30年度 発表グループ

中央区・博多区・西区・早良区・公立

「食育を見直そう
～離乳期からの食育～」



離乳食は、乳幼児期の食習慣を決める最初の一步です。しかし、「食べる力」を育む上で最も重要な離乳期に、十分な配慮ができていないのではないかという意見があがっているのが現状です。そこで、中村学園大学短期大学部 森脇千夏先生を講師にお迎えし、離乳期の食育について2年間研究を重ねてきました。子どもの成長・発達にあわせた離乳食の充実を図るため、講演会や調理実習など計4回の学びの場を設けると共に保育士、給食職員を対象に実施したアンケートからは双方の離乳期の課題が見え、充実した研修を進めることができました。お互いの専門性を活かし、食べる楽しさや力を育む子どもたちの成長の手助けが出来たらと考えています。



見どころ・聞きどころ

離乳食期からの食育をPowerPointを用いて、多くの先生方に伝えたいと思います!!

「気になる子ども」の理解と支援の実践



気になる子は大人から見て困った子ではなく、「子ども自身が困っている子」であると考え、子どもが何に困っているかを観察し、どう支援していくかを考え、実践し、経過観察していく中で「子どもを見る目、見る枠を増やす事」を目的とし研修を進めていきました。

周囲にとって困った行動の結果だけを見て注意、否定して解決するのではなく「なぜ？」とまず疑問に思い、その子が何に困っているかを見る。そして記録する事により行動が整理され、その子の傾向から支援方法を検討し実践していきました。その中で学んだ事は「気になる子」というレッテルを貼らずに一人ひとりの特性を理解し、行動をアセスメント（目的の視点を持って観察する事）、分析して支援していく事で過ごしやすい場（居場所づくり）になり、自己肯定感を育む事に繋がるという事です。研修で学んだ事は、園全体で職員間、保護者とコミュニケーションや、連携をとりながら共通の支援方法で取り組んでいきたいと思えます。



見どころ・聞きどころ

子どもの気になる行動には《誤学習》したものと《未学習》のものがある事を学び、分かりやすく劇の中で演じます。その中でやってしまいがちな対応と正しい対応の仕方もお伝えします。きっと共感できる部分もあるはず。是非、日々子ども達との関わりの中で参考にして頂けたらと思います。

「子どもとの関わりの中で保育実践力を学び合う」
～子ども的心情を理解し、適切な援助を考える～



“保育の質の向上”“保育士の専門性”を問われて

いる今。保育実践において「子どもを理解する力」「意図や目的をもち計画を立てる力」「その後の育ちの見通しを持つ」「保育の手立てを考える力」は不可欠です。

研修では、保育実践の場面を取り上げ“相談記録(関わりで悩む事)”“子どもが夢中になって遊ぶ姿”の場面記録を取りました。グループに分かれ、1つ1つの事例を考察していく中で、保育を考える仲間との存在の大切さに気づき、新たな子どもの観方を知ることができました。

また、子どもは様々なあそび(経験)の中で「学ぶ」「発見する」「試す」「考える」「仲間との共感」⇒「成長へとつながる」ことがわかりました。

この学びを、子ども達のため、そして保育を行う仲間のために活かしていければと思います。



見どころ・聞きどころ

子どもの観方について考えてみよう!

**「足指と姿勢と噛み合わせ(歯並び)」
～ゆびのば体操で“怪我知らず・
バランスの良い身体”を手に入れよう!!～**



平成27年度一般保育士研修会で、現代っ子の足の異変（かがみ指・反り指・扁平足等）と子ども達の様々な姿（歩くとすぐ疲れる・よく転ぶ・体のバランスが悪い等）との関係を学んだことをきっかけに、東区グループはみらいクリニックの今井一彰先生を講師に迎え、歯科医の先生方のご協力の元、足指を伸ばして広げる「ゆびのば体操」を①する園・しない園との比較、②体操を行うと子どもの姿勢・歯並びにどのような変化があるかについて研究しました。各園で体操を実施しながら情報を共有し合い、どの園も出来るだけ毎日行えるよう工夫しました。2年間の研究の結果、少しずつですが転倒による怪我の受診数の減少、姿勢・歯並びの改善が見られています。研修を通して多くのことを学び、研修員同士の絆も含め沢山のものを得ました。これからも「ゆびのば体操」を続けていきたいと思えます。



見どころ・聞きどころ

研究発表の最後に会場の皆様と一緒に実践を行います。五本指ソックス又は裸足になれる靴下で来て下さい!!



**第31回 福岡市
グループ
見どころ**

福岡市では、各区(7区)と給食、主任、公立の10グループこのグループ研修の発表は、毎年開催している保育研の形を新たにしました。

5グループに分かれ、2年間行ってきた研修を発表し、研究委員さん達が、ゆとりを持って落ち着いて発表でき聞いて頂き、是非とも貴園の保育に生かしていただけたら今号では、平成29年度発表グループの研修内容と研究

平成29年度 発表グループ

東区・南区・城南区・給食・主任

**乳幼児コミュニケーション力を育むために
～0・1歳児の非言語的コミュニケーションに着目して～**



主任保育士研究会では、0・1歳児の非言語的コミュニケーションに着目し、福岡教育大学 名誉教授横山正幸先生の指導のもと研究会を積み重ねてきました。

主任保育士研修でのアンケートから、喃語や指さしなど、乳児が発する非言語的な要求に気付いていなかったり、子どもの泣いている理由が分からず対応に戸惑う保育士の姿もあるという実態が見えてきました。そこで保育士がより質の高い応答を継続的に行うために、どのように啓発して行くのが望ましいのか、主任の先生方の様々な意見を基に、保育士が乳児へのかかわりに関する実践のポイントをまとめた、小冊子、ポスターを作成する事が出来ました。



見どころ・聞きどころ

◎小冊子を使った園内研修や実践事例の効果をご覧ください。

**福岡市科学館
各フロアー紹介**

平成29年10月1日に開館した、福岡市科学館。前号でも少しだけ御紹介いたしました。今号では各フロアの詳細を御紹介致します。

6F

◆ドームシアター(プラネタリウム)

福岡市科学館のプラネタリウムは、世界最高水準の最新鋭統合型プラネタリウム Gemini Star Σ F u k u o k a (ジェミニスターシグマ フクオカ)です。自然に限りなく近い星空を再現する最新鋭光学式投影機と高解像度(8K相当)デジタル式投影機を駆使し、臨場感あふれる映像を楽しめます。本物のように美しい星空を再現したり、138億光年彼方の宇宙の果てまでフライスルーするなど実際には体験できないダイナミックな宇宙の姿をリアルに演出します。又、宇宙の最新映像を盛り込んだ学習用プログラムをはじめ、音楽と映像が融合したエンターテイメント性の高いプログラムを展開します。

ドームの直径は九州最大級の25mの大きさを誇り、220席のリクライニング付きのシートをゆったり配置し、快適にご覧いただける環境を整えたドームシアターです。

又、福岡市科学館独自のオリジナルストーリーや全国で放映中の人気番組も放映

中です。
(放映番組スケジュールに関してはホームページを御覧ください)



◆サイエンスホール

300インチのスクリーン、高精細4K映像システム、音響を備えた座席数300席のホールで、講演会やセミナー、演劇などのイベントに対応できます。また「国際宇宙ステーション」のプロジェクトの概略や意義、「さぼう」日本実験棟のスペック・内部を紹介するバーチャルリアリティ映像もイベント時に上映しています。

5F

◆基本展示室

「宇宙」「環境」「生活」「生命」と、未来について考える「フューチャー」からなる参加体験型の展示や、様々なショーが



練り広げられるサイエンスショーなどを楽しめます。
「宇宙」・宇宙の広がりや様々な方面からアプローチした地球の姿などを体験しながら学びます。
「環境」・地球の環境や生態系、エネルギーの使われ方などを知り、環境の大切さを学びます。
「生活」・交通システムや地震対策、新しいテクノロジーなど、暮らしを支える技術を紹介します。
「生命」・医療技術や生物の進化などを通して、生命の不思議に迫ります。
「フューチャー」・日常生活の不思議をサイエンスとクリエイティブの両方の視点から発想し、また、科学の力で新しい星を作り出すなど、自分たちの未来を考えます。

4F

◆サイエンスナビ

多様な情報を検索できるシステムや、科学的な思考にいざなう書棚、ミッションボードなどで、科学の楽しさを体感できる空間です。科学館の中の展示やイベントで関心を持ったことを、科学雑誌や図鑑、映像などを使って深掘りし、科学への関心を広げます。



◆サイエンス&クリエイティブ工房

新しい展示やドームシアター番組を開発する工房には最新の機材を設置し、クリエイターなども利用可能。壁面をガラス張りにし、来場者が室内の活動を見学できます。

他にも、科学をテーマに様々なショーを楽しむ「サイエンスショーステージ」や、二足歩行ロボットやコミュニケーションロボットなどがずらりと並ぶ「ロボスクエア」、木工や金工、デジタル工作などを体験できる「工作室」等、実際に触れて、感じて、楽しみながら学べるスペースが充実しています。



◆**実験室**
化学、生物、物理、地学など、様々な活動プログラムを行います。

◆**3F**
◆**総合案内・ウエルカムホール・企画展示室**
福岡市科学館の玄関口です。総合案内やチケットカウンターがあります。ウエルカムホールではダイナミックな映像が来場者を出迎えてくれます。企画展示室では大空間を利用して宇宙などをテーマに話題性のある企画展（特別展）を実施します。

福岡市科学館見学の感想

去る10月26日に年長児の園外保育で福岡市科学館に行ってきました。

施設がとてもきれいだったのは当然ですが、最新の機能や実際に見て触って体感できるものが随所にあり、子どもの好奇心を刺激するしかけがいっぱいありました。

子どもたちは、人類や宇宙の始まりを立体的な映像で見たり、宇宙から自分たちの住んでいるところまでの広がりや最新の機械で体験したり、環境やエネルギーの仕組み方についての展示を見たり、手で触ったりしました。「おもしろいな」、「なぜだろう?」という体験をとおして、科学への興味を少しでも持ってもらえたらいいなと思っています。

また、プラネタリウムも観賞しましたが、最新鋭のドームシアターということで、音響や映像の臨場感もさることながら、映像の美しさが印象に残っています。内容は少し子どもたちには難しかったかなと思う部分もありましたが、「人間はお星さまからできていたんだ」という声も聞かれ、子どもたちなりに何かを感じ、学ぶことができたんだと嬉しく思いました。

心に残ったことを尋ねてみたところ、「太陽がかっこよかった」、「お星さまがきれいだった」、「土星、木星が大きかった」、「恐竜が出てきてすごかった」、「地球がきれいだった」など、様々な声を聞くことができました。

子どもたちにとって科学や宇宙の魅力に触れられる貴重な体験になったと思います。

(和光保育園 神田由美子)

秋の叙勲受章



星の原園地保育園 園長 左座 キク子

この度は、叙勲の栄を授け、光栄に存じます。昭和四十八年四月より園長として、子ども達の成長を喜び

祝

瑞宝双光章



荒江保育園 園長 荻原 瑛恵子

この度の叙勲で瑞宝双光章を賜り、身に余る光栄と心より感謝いたしております。

とし四十数年歩む事ができましたのも、保護者の皆様、地域の方々、職員、家族の支援があったからこそと心より感謝申し上げます。幼稚園教諭として勤務し始めたころ、「今日の子ども達は、どんな事に興味を持って遊ぶのだろう」と思いを馳せながら通動していた事を思い出します。保育士の仕事は決して楽なものではありませんが、子ども達の前に立つときには元気に生き生きとした職員であってほしいと常々申しております。今後も、健康に留意しながら、一日でも長く子ども達の幸せを願う日々を過ごして参りたいと思います。

変わりゆく時代と共に保育を必要とする保護者も多くなり、安心して預けられる環境作りに励んで参りました。子ども達が心身共に健やかに育つようにと願い、今日まで保育に専念できたのも、一重に地域の皆様をはじめたくさんの方々のおかげと心よりお礼申し上げます。次世代を担う子ども達が明るく逞しく思いやりのある子どもに育っていくよう成長を楽しく見守っていききたいと思っております。

保育園および園児をさまざまナリスクからサポートします



保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップしています。また、それらを総合的に補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。保育者にとっては一般に比べて割安な掛金で補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先にごどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社・三井住友海上火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

(引受保険会社)

(幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 公務第一課 TEL：03-3515-4133
(共同引受保険会社) 三井住友海上火災保険株式会社

このご案内は全私保連保険制度・園児総合保障共済制度の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパフレットをご覧ください。詳細は契約者である社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

リレー回想

「自然の懐に戯れて」

わかひさ保育園園長 井上 國康

1 この4月西鉄高宮駅前に戸建ての小規模、えがお保育園が開園しました。そこは今から53年前、当保育園の前身、にこにこ保育園が誕生し20年間無認可として運営していた場所です。先に崇高な福祉の理想・理念があったわけではなく、多少の地域貢献くらいの思いで、法律や福祉のことは何も分からず手さぐりで始めたようです。昭和40年頃の保育需要は少なく初めは園児2名でした。続けるか随分迷った時期もあったと聞いています。半世紀前、苦勞してスタートした園も昭和60年4月わかひさ保育園に引き継がれ、建物は暫く空き家になっていました。その後、法律が整備され今春から同地に認可園として復活することになり、この機に回想することに感じ、リレーのバトンを受けることにしました。

2 数年前、学校を退職し当園に着任しました。経験のない素人で模索の日々ですが、この間に抱いた思いを幾つか述べてみます。

私は保育園も幼稚園も通ったことはありません。幼少期は家で自由放任で育ちました。小学校に上がるとクラスの際は、字を書けていろんな歌を知っていて凄いなと思いましたが。学校の勉強は嫌いで、夏休みも宿題はそっこのけで徒党を組んで蝉、ザリガニ、蛙、メジロ捕りに興じ、お百姓さんの苦勞も知らず稲藁を崩し悪戯のし放題で日暮れまで毎日遊んでばかりいました。当時は福岡市内でも裏山、小川、田圃、沼、

空き地・・・遊ぶところはいくらでもありました。しかし手つかずの自然から得た事は多く、学年が進むと次第に運が開けてきました。今考えると自由な子ども時代、豊かな自然と少しの危険、小動物達、仲間との触れ合いが落ちこぼれから私を救ってくれたように思います。

人類史のごく最近を除き、ヒトは400万年くらい森や草原で暮らしていたそうです。人が山や川、里山の緑に心が潤うのは世代を継いで自然に囲まれた生活がDNAに深く刻み込まれているからでしょうか。

「蛋白質であるポルフィリン環の中心がMgの葉緑素をFeに置き換えたものが人の赤血球」と農学部の方に教わりました。緑なす自然と私たちは元々一体なのだと思えました。今回の保育所保育指針（以下新指針）でも「幼児期での自然の持つ意味の大きさ」に触れています。



3 「食育の環境」（新指針）の項で食物アレルギーの子どもたちへの対応が求められる記述が加わりました。市保育協会でも現状把握の調査をしました。医療機関や福祉行政が

も様々な指導助言がなされて感謝しています。

全ての生き物は生息する環境、気候風土に依存し切り離せません。例えば「地産地消」とあるように、人は地元産の食物にあう消化酵素を獲得してきたからこそ何千年と其処で生きてきたわけです。今は地球の裏側の食物も豊富に手に入りますが人の臓器はすぐに対応できません。本来草食動物である牛に肉骨粉を与え、昔はなかった狂牛病が発生したことは示唆的です。改善のヒントに除去食以外の問題もあるような気がします。「栄養士の専門性を生かした対応」（新指針）に期する事、大です。

4 卒業前の高校生に助産師の方を招いて講演会を開いた時です。「人は本来哺乳動物の一種として母子密着の子育てを母乳育児を通して獲得してきました。しかし今、哺乳動物で母乳を飲まずに育てるのは人間だけですが」と、母乳育児の優越性を説かれていました。更に近年はメディア機器などの利便性も手間を省く育児を可能にし、結果愛情が十分に育たず、虐待を受ける子どもの増加の一因になっていると思います。乳幼児期の親子の愛着形成を全力で支える私達の役割はとて大きくもなっています。新指針では乳幼児期の養護と教育に多く記述が割かれていて、この時期の生育歴がその後にならぬ大きな影響を及ぼすと読み取れます。

5 野生動物が生き抜くために五官を

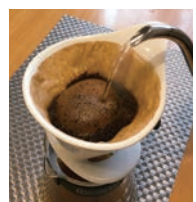
磨くことは必須のことです。映像で見る生き物達の鋭い感覚にはいつも驚かされます。危険に晒されることの比較的少ない人間の場合、人間らしく意欲的に生き抜く原動力は、やはり感受性を育む子ども時代の感動の経験であるように思います。

「わー！おもしろい！」という感動はその子の記憶に永く残り一生を支えます。五感を育てる保育を目標に掲げている園は多いと思います。小さな子どもは体験を自由に選択できません。多様な経験をさせることは保護者、我々保育者の大切な役割です。「なぜ、どうして？」を連発して教師を困らせ、小学校を3ヶ月で退学。心配した母は好奇心旺盛だった息子に様々な実験器具を与え感動体験を支え続けました。息子とは後の発明王エジソンです。

6 「教え過ぎ」これは教職を離れて今も後悔していることです。正解までの過程は与え方によって、子どもが自ら考え判断する思考を閉ざすことになります。多様な失敗や誤答を繰り返してこそ子どもは問題解決の方法を身に着けるのだと思います。学校と違い教科書がない保育園の先生方の創意工夫された日々の保育にいつも感心させられます。子どもは遊びの中でいつも課題の発見と解決過程を体験しています。それを温かく見守り導いてある保育士の先生方に「子どもの主体的な活動を促す援助（新指針）の基本姿勢を教えられたと思います。

「教育とは不完全なもの、不完全なものに依る営みである」これは前職で研修の重要性の指導を受けた時の言葉です。未来ある子どもたちのために、私たちが目指すより質の高い保育もこの先にあると思います。

編集後記



私は毎朝コーヒを豆から挽いて飲んでいますが、その話を話すと「優雅やね〜」って言われる事があります。すると、頭の中でタバタ〜のフレーズにのって遠藤周作さんが現れます…。手挽きのコーヒミルでゴリゴリ豆を挽くって、量にもよりますが、必死に何百回ゴリゴリ回すのでしょうか？豆が引っかかる結構大変で、小さなミルだとなおさらです。

ドリップコーヒの入れ方はいろいろあるようですが、周りからお湯をかけ30秒ほど蒸らして中心から少しずつお湯を入れると、モクモクと泡と一緒にコーヒ豆が吹き出してくれます。この瞬間は快感ですよ〜うまくいくと何か良いことありそう〜！日の運勢占いになっています。



朝の慌ただしい中、優雅なんて思えませんが、見られる側と見る側、感じ方は違うんですね。「優雅な時間」やってみますか？（高山）